

# 企業ニュース **ダイト**

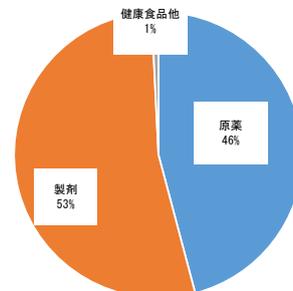
(東証プライム : 4577) <https://www.daitonet.co.jp/>

作成者: 兵藤三郎

## 原薬から製剤まで一貫製造を行う製薬企業

◇21.5期売上高構成比

1942年、大東亜薬品交易統制設立。富山家庭薬の東南アジアへの輸出統制を行う。戦後は民営化し、ビジネスモデルも商社型から製造業型に転換。配置用医薬品の製造から医療用医薬品、原薬の製造、原薬・医療用医薬品の受託製造にも事業領域を拡大。1991年に現社名に商号変更した。原薬及び製剤は新薬、ジェネリック専業、O T C (市販薬)、配置薬メーカーに納品されるため独自のMR (医療情報担当者) が不要で、経営資源を製造部門に集中できる。幅広い生産品目を持つことで、さまざまな情報を取り込み、競争力向上につなげている。生産能力も継続的に増強を続けている。2020年12月第八製剤棟に2ライン目が竣工、2022年5月には第七原薬棟が竣工予定 (商用生産開始は2023年1月予定)。2022年1月に第十製剤棟 (2023年10月竣工予定) の投資計画が発表された。



(注) 22.5期期首より収益認識基準適用  
21.5期に適用したと仮定し算出  
(出所) ダイト資料よりCAM作成

## 製剤の販売堅調、第3四半期営業利益進捗率96%

22.5期・第3四半期 (6-2月) の連結業績は、売上高が336億円、営業利益が56億円、前年同期比6%増。当期期首より収益認識に関する会計基準を適用しているため売上高の増減率開示はないが、前期も当該会計基準を適用したと仮定すると7%の増収。原薬は一部既存品目の販売が減少したが全般的には堅調に推移、製剤は自社開発ジェネリック医薬品、高薬理活性製剤 (抗がん剤など少量で強い薬効があるもの) などの販売が伸長した。

22.5期の会社計画は、売上高が425億円、前期比6%増 (前期に収益認識に関する会計基準を適用したと仮定)、営業利益が59億円、同微減。21.5期に続き大型の設備投資を実施。減価償却費が増加するため、増収だが利益面ではほぼ前期並みを見込んでいる。4月の薬価改定が、第4四半期 (3-5月) の不透明要因となることもあり、業績予想を据え置いた。しかし通期計画に対する営業利益の進捗率は96%と高水準、超過達成が予想できよう。中期的にも、当社が注力している高薬理活性製剤の需要拡大が期待でき、継続的な能力増強が成長のけん引役となろう。

### [株価動向・投資判断]

生産能力への継続的な投資に伴い、減価償却費は増加するが、増収効果で補い、中期的な業績拡大が見込める銘柄であろう。

<4577 ダイト 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20.5	44,991 ( 9)	5,357 ( 18)	5,462 ( 18)	3,944 ( 12)	309.7	記46.00
21.5	48,714 ( 8)	5,908 ( 10)	6,067 ( 11)	4,246 ( 8)	311.0	46.00
22.5 予	42,500 ( 6)	5,900 ( ▲ 0)	6,000 ( ▲ 1)	4,250 ( 0)	309.9	60.00

(注) 22.5期より「収益認識に関する会計基準」等を適用、伸び率は21.5期に当該会計基準等を適用したと仮定して算出



[主要株価指標] (売買単位: 100株)	
株価 (2022/4/22)	2,571 円
年初来高値 (高値日)	3,065 円 (22/3/1)
同 安値 (安値日)	2,556 円 (22/4/18)
予想 P E R (22.5 予)	8.3 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	3,248.9 円
P B R	0.79 倍
予想配当利回り	2.33 %
(1株当たり配当金 60.00円)	
R O E (21.5)	10.9 %
発行済み株式数	1,414 万株